

I LOVE高岡 I LOVE富山

加能 由美子

大学時代の仲間が高岡に集まることになった。早逝した友の墓参りのためである。還暦を過ぎ、仕事も子育ても一段落した今、ようやく実現しようとしていた。お墓のある場所は高岡。同じ高岡に住む私が自然と世話役となった。

墓参りが滞りなく出来るようにまずは下準備に取りかかった。墓参りの目途が立ったところで、さて、その後はどう過ごそうという新たな問題が出てきた。やっぱり大学時代を過ごした金沢に行こうか。でも、せっかく高岡に集まったのに……。迷った末、高岡をみんなで巡ることに決めた。折しも元号が令和に変わった年で、世の中が万葉集の話題であふれていたことも後押ししてくれた。

高岡を案内すると決めた後は、いつ、どこをどう巡るかなどの企画である。プランを立てようとすると、二日間ではまわり切れないほど高岡には案内したい所がたくさんあることが分かった。どこを案内しようか悩みながらも、いつの間にか楽しんで考える自分がいた。

案内メニューが決まった。

日は十月四日、万葉朗唱の会が行われる。みんなで参加しよう。次の日は、国宝瑞龍寺、山町筋から高岡の大仏まで歩くのもいい。途中で御車山会館に寄ろう。そして、少し足を伸ばして万葉歴史館、雨晴海岸へ。へは富山ブラックラーメン。しおりにまとめ、ドラえもんの消印が押される高岡駅のドラえもんポストから投函。高岡はドラえもんの街でもあるんだよ。

準備は整った。後は当日を待つのみ。

令和元年十月四日。

懐かしい顔が次々に現れる。全員揃ったところで一番先に行くところはもちろん、友のお墓。みんなで墓前に手を合わせた。

高岡巡りのスタートである。

万葉朗唱の会が行われる高岡古城公園へと向かった。万葉朗唱の会は私のお気に入りの行事である。万葉集全二十巻を三日三晩詠み続けるというスケールの大きさ、詠む表現方法は自由という懐の深さがとてもいいと思っている。とはいえ、いつも見るばかりで参加したことは一度もなかった。みんなと一緒にこれから朗唱に参加すると思うと会場への歩みが自然と足早になった。

会場で万葉の衣装に着替える。赤、紫、水色、緑……衣装の鮮やかな色に包まれ、すっかり万葉人気分になった。肝心の朗唱はこれから練習。一夜漬けならぬ直前漬けだ。私たちのグループに割り当てられた歌は三一九〜三二七の八首。有名な歌以外は知らない私は、はじめましての気持ちで歌と向き合った。幸運なことにその八首の中に、伊予で作られた歌、富士を詠む歌があった。愛媛から来た友、静岡から来た友にぴったりだ。

「どう詠むの？」

「自由なんだけど、例えば🍀」

時間がないので躊躇するも下手な朗唱を手本に詠んでみる。

「熟田津。にきたつと読み仮名ふつてあるけど、愛媛ではにきたつと濁点をつけるよ」

節回し、発音等々、ステージ上で朗唱するとあってみんな真剣だった。

そして、本番。それぞれ担当の歌を詠み、最後はみんなで声を合わせて詠み終えた。

「緊張したけど、朗唱気持ちよかったね」

「衣装姿、写真撮らなくっちゃ」

みんなの顔は笑顔だ。いい思い出となってくれたら嬉しい。そう思いながらも私は、会場が体育館ではなく、お堀の情緒ある水上ステージでやりたかったと荒天を恨めしく思っていた。今となればそれも含めて全部いい思い出だ。

その日の夜は、富山の美味しい魚とお酒で盛り上がったことは言うまでもない。

十月五日（二日目）

最初の行き先は瑞龍寺。国宝である。瑞龍寺の価値がよくわかるようにボランティアのガイドさんと一緒に見学することにした。何度も瑞龍寺に訪れている私もガイドさんの説明で興味深く見学できた。そして、何よりも印象深かったのは回廊。朝日が差し込み、長くまっすぐに続く廊下の床に窓の影が並んでいた。ブレのないまっすぐ続く影。その凛とした美しさに思わず背筋がピンとなった。影までもが国宝級であった。

次は、山町筋へ。御車山の展示を見たり、ランチを食べたり。ランチは友のりクエストにより昆布締め。昆布の話になり、大仏の後は昆布屋さんに行くことになった。店主おすすめの昆布がお土産となった。

日が暮れかかってきたが、高岡にはまだまだいいところがあることを知ってもらいたい思いで万葉歴史館、雨晴海岸を案内した。最後は富山ブラックラーメン。その黒さの秘密を聞きながら味わった。

二日間の高岡巡りは終わった。みんな満足してくれている。よかったと思って  
いると、別行動した友からメールが届いた。雄山の頂上でVサインの写真だった。  
それぞれに富山を楽しんでくれていた。

一か月ほど経った頃、「高岡観光大使」というタイトルのメールが友から来た。  
内容は次の通りである。

お土産の昆布で作ったおにぎりが気に入り、また注文して取り寄せたこと。そ  
の昆布を知り合いにおすそ分けしていること。その時、私がプレゼントした手  
作りの錫のペンダントを見せ、高岡は伝統産業の街、ものづくりの街とピーア  
ールして勝手に高岡観光大使をしていること。そして、「金沢もいいけど高岡  
もいいよ」と伝えていること。

高岡を誇らしく感じた。高岡が前より好きになった。

またいつかみんなが集まろう。こんどは呉東方面も案内したいな。あつ、みん  
なで立山登山もいい。体鍛えておこなくっちゃ。